

今日の説教のポイント<マタイによる福音書7章13-20節>

①門、道、命。新約聖書では、イエス・キリストをまず思う言葉。

「狭き門より入れ」(13)。この聖句を聞いて私がまず思い浮かべるのはジイドの小説『狭き門』です。真実な愛はプラトニックな愛だと信じて突き進んでついに悲劇的な結末を迎える小説に、教会に行き出して間もない高校生(私)は、そのあまりに崇高な愛に衝撃を受けたものです。しかし、その時考えていた「聖」も「徳」も[愛]も、聖書が教えるそれと違っていたことは、その後段々分かって来ました。今日の箇所にある「狭き門より入れ」で、なにか「楽しいことは諦めて苦しみを覚悟したら、その先に救いが待っている」というようなことを考えるなら、それは違うのです。イエス様はこう言われています、「私は道であり、真理であり、命である。私を通らなければ、誰も父のもとに行くことができない」(ヨハネ14:6)。「門」でまず思い浮かべるべきは、イエス・キリストです。この主イエスに聖書を通して真剣に迫り続けるなら、「楽しいことは諦め、苦しみを覚悟し」とは違うことが分かって来るはずです。

②門、道がイエス・キリストなら、「偽預言者」(15)は誰のこと？

聖書に聞き続け、その中のイエス様を思い浮かべられるようになる時、私たちの人生は変わって来ます。弱い者、小さい者、そして罪深い者をどこまでも赦し、愛し抜いて下さったイエス様。この方を知り、この方を送って下さった神様の存在を知って行く中で、私たちは生きることが楽になって来ます。イエス様は私たちのためにご自身の命を犠牲にして下さった方なのです！

ある注解者が、今日の箇所に出て来る「偽預言者」「広い道」とは非信仰者や彼らが歩む道を指すのではなく、教会の中の信仰者、つまり私たち自身のことを考えねばならない、と指摘しています。どうでしょう、イエス様の姿からは程遠い言葉や行動を平気で兄弟姉妹に対して語ったり、行ったりしていませんか？ 相手の人に良い実を实らせるのではなく、悪い実を实らせてしまっていないませんか？ 「狭い門より入る」とは、座禅を組んだり、苦行を自分に課するようなことではなく、イエス様を思いながら感謝を持って生きて行くこと、そうすることで周りの人たちにもその喜びが伝わるような生き方をしていくことなのです。